

Title	前立腺腫瘍の体質学的研究 2.毛髪その他について
Author(s)	小川, 昌彦
Citation	泌尿器科紀要 (1967), 13(7): 507-515
Issue Date	1967-07
URL	http://hdl.handle.net/2433/113178
Right	
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	publisher

前立腺腫瘍の体質学的研究

II 毛髪その他について

広島大学医学部泌尿器科学教室（主任：加藤篤二教授）

小川昌彦

CONSTITUTIONAL STUDIES ON TUMOR OF THE PROSTATE

II. ON HAIRING AND OTHERS

Masahiko OGAWA

*From the Department of Urology, Hiroshima University School of Medicine**(Director: Prof. T. Kato, M. D.)*

Statistical observation was made on the status of lipsotrichia, status of hairing (beard, chest bristle, pubisure and leg bristle), status of canities, coital frequency, habits of foods and tastes and occupation on 434 patients with prostatic hypertrophy, 47 patients with prostatic cancer and 40 patients with reserved controls who visited the Department of Urology at Hiroshima University Hospital. Comparative analysis showed that the patients with prostatic hypertrophy have a tendency of fainting forehead hearing and thinning of bearing, but many patients with prostatic cancer showed thick bearing. The chest bristle was not observed in most of patients with prostatic hypertrophy, while it was seen in 30% of the patients with prostatic cancer. Concerning the pubisure, more than a half of patients with prostatic hypertrophy were noted to have horizontal type I and II or sagittal type I, while more than 60% of patients with prostatic cancer showed sagittal type II or acuminate type. On the leg bristle, the patients with prostatic cancer had thicker hairing than with prostatic hypertrophy or controls. Status of canities were not different between the groups. A tendency of higher coital frequency was noted in patients with prostatic hypertrophy. Further, the patients with prostatic hypertrophy had a trend to take more fatty food in every age group than the other patients. There was no noticeable difference on occupation between the groups.

I 緒 論

著者は第I編において前立腺肥大症患者は重量級体重で身体の幅が広く下肢が短く胸囲および臀部の大きな者が比較的多く見られ、これに反し前立腺癌患者では中等度および軽量級体重で瘦身の者が多く見られることを報告した。今回は広島大学附属病院泌尿器科へ来院した前立腺腫瘍患者について頭髮の状態、体毛の状態（鬚髯、胸部硬毛、陰毛、下腿硬毛）、白髪の状態、性交回数、食事の傾向および嗜好、職業等を前

立腺肥大症患者、前立腺癌患者および対照老人に分けて観察し、それらに何等かの差異、傾向および相関が認められるか否かを検索した。

II 検 査 方 法

1) 検査対象

10年間の広島大学医学部附属病院泌尿器科外来および入院患者についての前立腺肥大症患者434例、前立腺癌患者47例を検索し、その対照として広島大学医学部附属病院と広島県内の公立養老院の老人で体力、体重、体質等に著変を来していないと考えられた45才以上の40例を対照者として選んだ。

2) 検査事項

前立腺腫瘍患者の頭髮の状態、体毛の状態（顔、胸毛、陰毛、下肢内側部硬毛）白髪の状態、性交回数、食事の傾向および嗜好、職業別について検索した。

3) 検査方法

(1) 前立腺腫瘍患者の頭髮の状態について表1に示すごとく、頭髮の状態を図のように8分類できたので、それをA, B, C, D, E, F, G, Hとし、この各種類における前立腺肥大症患者群、前立腺癌患者群および健康対照老人群について調査した。

(2) 前立腺腫瘍患者の体毛の状態については、表2, 3, 4, 5参照。

(A) 顔硬毛

非常に薄い、薄い、普通、濃い、非常に濃いので5段階に分類した。

(B) 胸部硬毛

無い者、微量の者、濃い者、非常に濃いので4段階に分類した。

(C) 陰毛

表4のごとく水平型I, 水平型II, 矢状型I, 矢状型II, 尖圭型, 分散型の6種類に分類した。

(D) 下肢内側部硬毛

1cm²中の数を0~1本, 2~3本, 4~5本, 6~7本, 8~9本, 10本以上の6段階に分類して調べた。

(3) 前立腺腫瘍患者の白髪の状態について表6に示すごとく白髪の状態を黒髪に対する白髪の比率で示し、100~90%, 90~70%, 70~50%, 50~30%, 30~10%, 10~0%の6種に分類し前立腺肥大症患者群、前立腺癌患者群および対照老人群について調べた。

(4) 前立腺腫瘍患者の性交回数（表7参照）は問診により性交回数を20才以下, 20才代, 結婚当初, 30才代, 40才代, 50才代, 60才代, 70才代の各年代について週平均回数を聴取した。

(5) 前立腺腫瘍患者の食事の傾向および嗜好は表8, 9に示すごとく肉等濃厚食事, 野菜等淡泊食事, 偏食なし, アルコール(好む, 普通, 嫌い), タバコ, 甘党, コーヒー, ココアを(好む, 普通, 嫌い)の7項目に分類し青年期, 壮年期, 老年期を同一患者について、問診した。

(6) 前立腺腫瘍患者の職業別については表10のごとく職業を農業, 無職, 商業, 公務自由業, 会社事務員, 工員労務者, 漁業の7職種についての前立腺肥大症患者群, 前立腺癌患者群および対照老人群に分けて調査した。

III 検査成績

(1) 前立腺腫瘍患者の頭髮の状態については表1に示すごとく全体にAの状態のものが他に比して多く前立腺肥大症31%, 前立腺癌29%, 対照老人34%である。Bの状態のものは前立腺肥大症19%, 前立腺癌18%, 対照老人16%とあまり差をみない。Cの状態のものは対照老人15%であり前立腺肥大症8%, 前立腺癌12%に比し、やや多い。Dの状態のものは前立腺癌7%, 対照老人6%であり前立腺肥大症0%に比して多い。Eの状態のものは前立腺癌13%であり前立腺肥大症20%, 対照老人17%に比してやや少い。Fの状態のものは前立腺癌8%であり前立腺肥大症3%, 対照老人3%に比して多い。GおよびHの状態のものはともに前立腺肥大症が前立腺癌や対照老人に比較して多い。

(2) 前立腺腫瘍患者の硬毛の状態は顔, 胸部, 陰毛および下肢内側部硬毛部位を検索した。

(A) 顔硬毛

前立腺肥大症では非常に薄いもの18%, 薄いもの38%と前立腺癌の各々3%, 11%, 対照老人のおのおの9%, 25%に比較して多い。また普通のものは前立腺肥大症29%は前立腺癌45%対照老人41%に比して少い。濃いものは前立腺癌26%と他に比して多く、前立腺肥大症14%で対照老人17%とはあまり差をみない。非常に濃いものは前立腺癌15%と最も多く、また対照老人8%であり前立腺肥大症1%に比して多い。

(B) 胸部硬毛

無いものが前立腺肥大症99.5%と前立腺癌72%, 対照85%に比して多く、前立腺肥大症患者の大多数を占めている。微量のものは19%と前立腺癌に多く、また75%と対照老人でも前立腺肥大症0.5%に比して多い。濃いものは前立腺癌6%, 対照老人5%と差をみないが前立腺肥大症0%に比して多い。非常に濃いものでは前立腺肥大症, 前立腺癌, 対照老人のおのおの0%, 3%, 2.5%とあまり差が見られない。

(C) 陰毛

水平型Iと水平型IIは前立腺肥大症がおのおの32%, 34%と前立腺癌のおのおの3%, 10%, 対照老人5%, 15%に比して多い。矢状型Iにおいては前立腺肥大症, 前立腺癌, 対照老人のおのおの21%, 19%, 17.5%とあまり差をみない。矢状型IIは前立腺肥大症10%が前立腺癌34%, 対照老人37.5%に比して少い。尖圭型は前立腺癌30%, 対照老人22.5%と多く、前立腺肥大症3%で少い。分散型は前立腺肥大症, 前立腺癌, 対照老人はおのおの0%, 4%, 2.5%とあまり差がない。

(D) 下腿内側部硬毛

0～1本のものが前立腺肥大症44%で前立腺癌0%，対照老人9%に比して多い。また2～3本のものも前立腺肥大症41%で前立腺癌8%，対照老人15%に比して多い。4～5本のものでは前立腺肥大症，前立腺癌おのおの13%，15%と差を認めないが，対照老人

21%に比して少い。6～7本のものは前立腺癌，対照老人おのおの26%，24%と前立腺肥大症2%に比して多い。8～9本のものは29%と前立腺癌が多く，対照老人19%と前立腺肥大症0%に比して多い。10本以上のものでも前立腺癌が21%で，対照老人12%，前立腺肥大症0%に比して多い。

表1 前立腺腫瘍患者の頭髮の状態

	A		B		C		D		E		F		G		H	
	症 例	%	症 例	%	症 例	%	症 例	%	症 例	%	症 例	%	症 例	%	症 例	%
肥 大 症	135	31	82	19	35	8	0	0	87	20	13	3	39	9	43	10
癌	13	29	8	18	6	12	3	7	6	13	4	8	3	6	3	7
対 照	14	34	6	16	6	15	2	6	7	17	1	3	2	4	2	5

表2 体毛の状態(顔)鬚髥

	非常に薄い		薄 い		普 通		濃 い		非常に濃い	
	症 例	%	症 例	%	症 例	%	症 例	%	症 例	%
肥 大 症	78	18	165	38	126	29	61	14	4	1
癌	1	3	5	11	22	45	12	26	7	15
対 照	4	9	10	25	16	41	7	17	3	8

表3 体毛の状態(胸部硬毛)

	無		微 量		濃 い		非常に濃い	
	症 例	%	症 例	%	症 例	%	症 例	%
肥 大 症	432	99.5	2	0.5	0	0	0	0
癌	34	72	9	19	3	6	1	3
対 照	34	85	3	7.5	2	5	1	2.5

表4 体毛の状態(陰毛)



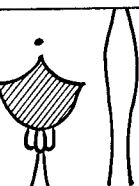



	水平型Ⅰ		水平型Ⅱ		矢状型Ⅰ		矢状型Ⅱ		尖圭型		分散型	
												
	症例	%	症例	%	症例	%	症例	%	症例	%	症例	%
肥大症	139	32	148	34	91	21	43	10	13	3	0	0
癌	1	3	5	10	9	19	16	34	14	30	2	4
対照	2	5	6	15	7	17.5	15	37.5	9	22.5	1	2.5

表5 体毛の状態(下腿内側部硬毛)

(1cm² 中の数)

	0～1本		2～3本		4～5本		6～7本		8～9本		10本以上	
	症例	%	症例	%	症例	%	症例	%	症例	%	症例	%
肥大症	191	44	178	41	56	13	9	2	0	0	0	0
癌	0	0	4	8	7	15	12	26	14	29	10	21
対照	4	9	6	15	8	21	9	24	8	19	5	12

表6 白髪の状態

	100～90%		90～70%		70～50%		50～30%		30～10%		10～0%	
	症例	%	症例	%	症例	%	症例	%	症例	%	症例	%
肥大症	22	5	87	20	122	28	104	24	78	18	17	4
癌	3	6	8	18	13	27	14	27	8	18	1	3
対照	2	5	7	17	11	29	13	31	5	13	2	5

(3) 前立腺腫瘍患者の白髪の状態

白髪の状態が100～90%のものは前立腺肥大症，前立腺癌，対照老人おのおの5%，6%，5%とあまり差を見ない。白髪が90～70%のものも前立腺肥大症，前立腺癌，対照老人おのおの20%，18%，17%とあまり差がない。70～50%のものも前立腺肥大症，前立腺

癌，対照老人おのおの28%，27%，29%と差が少い。50～30%のものは対照老人31%で前立腺癌27%や前立腺肥大症24%に比してやや多い。30～10%のものは前立腺肥大症，前立腺癌で18%，対照老人13%に比較してやや多い。白髪が10～0%のものでは前立腺肥大症，前立腺癌，対照老人おのおの4%，3%，5%と

表7 性交回数(週平均回数)

年 令	肥 大 症	癌	Kinsey	入 沢 (日/月)		入沢の週平均回数
				労 務 者	医師会員	
20 才 以 下			3.92			
20 才 代	3.29	3.40	3.34 2.89	13.1	17.8	3.86
結 婚 当 初	6.25	5.19				
30 才 代	2.30	2.36	2.45 2.05	8.2	12.4	2.57
40 才 代	1.79	1.42	1.74 1.80	5.4	9.2	1.83
50 才 代	1.35	1.09	1.33	4.0	5.7	1.21
60 才 代	0.61	0.22			3.7	0.92
70 才 代	0.09	0.09			1.9	0.47

表8 前立腺肥大症患者の食事の傾向および嗜好

	青 年 期		壮 年 期		老 年 期	
	症 例	%	症 例	%	症 例	%
肉 等 濃 厚 食 事	208	48	200	46	139	32
野 等 淡 白 食 菜 事	104	24	109	25	126	29
偏 食 な し	122	28	126	29	169	39
好 む	226	52	234	54	221	51
アルコール 普 通	122	28	126	29	74	17
嫌 い	87	20	74	17	95	22
タ バ コ	221	51	217	50	226	52
甘 党	104	24	91	21	122	28
好 む			69	16	61	14
コーヒー 普 通			200	46	195	45
嫌 い			165	38	178	41

あまり差を認めない。

(4) 前立腺腫瘍患者の性交回数

前立腺肥大症では週平均回数は結婚当初6.25回で多く20才代は3.29回、ついで30才代、40才代、50才代、60才代、70才代においてはおのおの2.30回、1.79回、1.35回、0.61回、0.09回、と徐々に減少している。前立腺癌については週平均回数が結婚当初5.19回で多く、20才代、30才代、40才代、50才代、60才代、70才代はおのおの3.40回、2.36回、1.42回、1.09回、0.22回、0.09回である。

(5) 前立腺腺癌患者の食事の傾向および嗜好

前立腺肥大症では青年期において肉等濃厚食事48%

が野菜等淡泊食事24%、偏食なし28%に比して多い。アルコールは好むもの52%が普通28%、嫌い20%に比して多い。タバコは51%が吸っている。また甘党は24%である。壮年期においては肉等濃厚食事46%が野菜等淡泊食事25%、偏食なし29%に比して多い。アルコールは好むものが54%と多く、普通29%、嫌い17%と少い。タバコは50%と半数が吸い、甘党は21%と少い。コーヒー、ココアについては普通が46%と最も多く、嫌い38%が好む16%に比して多い。老年期においては偏食なし、肉等濃厚食事がおのおの39%、32%で野菜等淡泊食事29%に比して多い。アルコールを好むものが51%で他の普通17%、嫌い22%に比して多い。

表9 前立腺癌患者の食事の傾向および嗜好

	青 年 期		壮 年 期		老 年 期	
	症 例	%	症 例	%	症 例	%
肉 等 濃 厚 食 事	13	28	12	26	6	12
野 菜 等 淡 白 食 事	10	21	14	30	22	47
偏 食 な し	24	51	21	44	19	41
好 む	23	48	24	51	21	44
ア ル コ ー ル 普 通	13	28	14	30	13	28
嫌 い	11	23	9	19	13	28
タ バ コ	24	52	23	49	25	53
甘 党	12	26	11	23	15	31
好 む			7	15	6	12
コ ー ヒ ー 普 通			22	47	19	41
コ コ ア 嫌 い			18	38	22	47

表10 職 業 別

	肥 大 症		癌		対 照	
	症 例	%	症 例	%	症 例	%
農 業	171	39.3	20	43.1	17	42.5
無 職	75	17.3	7	14.3	6	15
商 業	56	12.9	5	12.2	5	12.5
公 務 自 由 業	59	13.7	6	13.1	5	12.5
会 社 事 務 員	48	11.1	4	9.6	4	10
工 員・労 務 者	18	4.2	3	7.5	2	5
漁 業	7	1.5	1	0.2	1	2.5

タバコは52%のものが吸っている。また甘党は28%である。コーヒー、ココアについて普通45%、嫌い41%が好む14%に比して多い。

前立腺癌では青年期において偏食なしのものが51%と他の肉等濃厚食事28%、野菜等淡泊食事21%に比して多い。またアルコールを好むものが48%で普通28%、嫌い23%に比して多い。また52%がタバコを吸い、甘党は26%を占めている。壮年期においては偏食なしが44%で多くまた野菜等淡泊食事30%が肉等濃厚食事26%に比してやや多い。アルコールについては好むものが51%と半数を占め、普通30%、嫌い19%に比べて多い。タバコは49%が吸っている。また甘党のものは23%である。コーヒー、ココアは好むものが15%で普通47%、嫌い38%に比して少い。老年期においては野菜等淡泊食事47%、偏食なし41%が肉等濃厚食事12%に比して多い。アルコールは好むものが44%と多く、普通、嫌いは共に28%である。タバコは53%が吸っている。甘党は31%である。コーヒー、ココアについては好むが12%と少く、普通、嫌いがおのおの41%、47%と多い。

(6) 前立腺腫瘍患者の職業別

農業のものは前立腺肥大症39.3%、前立腺癌43.1%、対照老人42.5%でともに差が少い。無職のものは前立腺肥大症17.3%であり前立腺癌14.3%、対照老人15%に比してやや多い。商業のものは前立腺肥大症、前立腺癌、対照老人おのおの12.9%、12.2%、12.5%とあまり差がない。公務自由業も前立腺肥大症13.7%、前立腺癌13.1%、対照老人12.5%とあまり差を認めない。会社事務員は前立腺肥大症11.1%、前立腺癌9.6%、対照老人10%と差が少い。工員労務者においては前立腺肥大症4.2%、対照老人5%で前立腺癌7.5%に比してやや少い。漁業のものは前立腺肥大症1.5%、前立腺癌0.2%、対照老人2.5%であり前立腺癌において少い。

IV 考 察

前立腺腫瘍患者の内で前立腺肥大症、前立腺癌の間に大体一定の体格を有していることは第I編で述べた。これは Mercier (1949), Blatt (1926), Moskowitz (1932), Draper (1924), Hutter (1929) 等の研究からも推察され、緒論で述べたごとく前立腺腫瘍患者の体格における傾向が判明した。Blatt (1926) 等のいう前立腺肥大症患者は肥満体で赤ら顔、短かく太い頸、大きいよく発達した胸、色素の多い乳頭、著しく弛

緩した腹、きめの細い湿っぽく毛の少い皮膚、骨盤が広く、年令的に早く性的機能の消失するいわゆる“女性タイプ”が多いとされている。これらのうちの体質の傾向について具体的な数値を得る目的で前立腺腫瘍患者678名、対照老人40名の計測および問診を行なった。その結果を図表等を中心に考察を逐次行なう。まづ、頭髮の状態について鳥居(1929)は前額髮際を形成する線を前額毛髪付着部といい、高槻(1938)は禿髮線といっており、鳥居(1929)はこれを彎曲度によって強度、中等度、軽度の3度に分け、高槻(1938)はこの分類に従って年令的推移を調べている。また久保(1916, 1917)は円型、尖型、方型、側方型に分類している。著者はその頭髮の型を表Iの図のごとくに分類し、おのおのの占める比率を観察した。疾患に著しい相違は見られなかったが、前立腺肥大症では他の前立腺癌や対照老人に比較して頭髮の薄い禿頭の強い傾向がうかがわれる。体毛は第2次性徴を示す顔面の硬毛、男子の陰毛、胸毛、四肢硬毛等がある。鬚髯には口部の髭、顎部の鬚、頬部の髯があり、Pernkopf(1934), Patzelt(1926)はその密度を1cm²につき30~40本と計測し、本邦人では三木(1934)が観察している。著者はこれ等を基準にして客観的に観察を行ない、その度合を“非常に薄いもの”、“薄いもの”、“普通のもの”、“濃いもの”、“非常に濃いもの”に分類した。前立腺肥大症では“非常に薄いもの”が多く見られ、前立腺癌では“濃いもの”“非常に濃いもの”が比較的多く見られた。胸部硬毛は男子に特有なもので胸骨部を中心として左右に種々に発毛している。密度については、谷口(1935)によれば、1cm²につき平均して57才で71本、70才で87本という数値を示している。著者の観察した例では胸部硬毛の無いものが多い。数本のものを微量とし、数十本あるものを濃い、数えられない程多いものを非常に濃いに分類した。前立腺肥大症では胸部硬毛の無いものがほとんどであった。前立腺癌では胸部硬毛を有するものが約30%近い数値を示している。陰毛はその分布の形状が男女間でかなり差異があることは古くから注目されている。

すなわち、女性型は一般に底辺を上部に水平におき、頂点を下方にした倒三角形を示し、男性型はこの倒三角形に加えて下腹部すなわち、白線の上またはその周辺に発毛があり菱形を示すとされている。Dupertuis, Aihinson & Elfman (1945) は陰毛の分布状態を水平型、矢状型、尖圭型、分散型に分けている。著者はこれに従って分類し、その各中間型が存在するため、水平型 I, II, 矢状型 I, II, 尖圭型、分散型の 6 型に分類した。前立腺肥大症では水平型 I, II, 矢状型 I が半数以上に認められ、前立腺癌では矢状型 II, 尖圭型が全体の 60% 以上に見られた。下腿内側部硬毛や軀幹および四肢の硬毛は成人期以後に顕著となる。Danforth (1926, 1927) は男子に著しく女子では余り発達しないといふ成年期における硬毛の分布ならびに発毛状態はかなり個人差があり、顕著な相異を示すといわれている。谷口 (1935) によれば下腿前面硬毛は 1cm^2 につき 57 才で平均 79 本、70 才で 66 本と報告している。著者は Blatt (1926) が前立腺肥大症患者は一般にきめの細い湿っぽく毛の少い皮膚を示すといっていることから四肢の硬毛を検索した。部位は下腿内側上部 $1/3$ の高さで 1cm^2 に存在する硬毛の数を計算した処、前立腺癌ではほとんどの者が 6~7 本、10 本以上が多く、全体に対照や前立腺肥大症に比較して密度の高いものが多い傾向を示した。日本皮膚科全書によれば白髪的主要原因は毛母に存在するメラノサイトの機能低下によるメラニン色素の減少ないし欠如であると述べている。しかし毛幹内に多量の気泡が存在することも原因であるとされ、この気泡が如何なる原因によって生ずるかは今日まだ不明といわれている。白毛化は通常徐々に起り、一般に頭髪が 1 番先行するとされている。しかし短時日の間に急に白毛化する例も否定出来ないし、この原因も全く不明である。前立腺腫瘍と白髪との間に何らかの相関関係が見出せるか否かを調べた。まづその白毛化の全頭髪に対する比率を計算してみたが、前立腺肥大症、前立腺癌および対照老人の 3 者間には頭髪の白毛化にはほとんど差異を認めなかった。種々の生活状態、生活態度、食生

活、食習慣、嗜好、環境等が疾病に大きく影響することは古くから多くの学者達によって強調され重要視されて来た事柄である。すなわち疾病の根底である所の体質が問題となる。著者は性生活、食生活、嗜好、職歴について体質におよぼす影響が如何であるかを検索した。性生活は Kinsey (1953), Finkle (1959), Newmann (1960), 入沢 (1957) 等によりあらゆる方面から調査研究が行なわれている。性交回数について週平均回数を年代別に各疾患について問診により調査を行ない、Kinsey, 入沢等の数値を対照に検索した。著者の調査によれば全年代にわたって前立腺肥大症の方が前立腺癌に比較してやや回数が多い傾向を見た。しかし Kinsey (1953), 入沢 (1965), Dickinson (1933), 新村 (1956), 中村 (1961) 等の報告と比較すると前立腺肥大症も前立腺癌も各年代にわたってやや少い傾向が見られた。食事の傾向と嗜好については青年期より壮年期次いで老年期と長年にわたる食習慣の傾向を追求し、また同様にアルコール、タバコ、コーヒー、ココア等についても問診した。前立腺肥大症では各年代層を通じて肉等濃厚食事の傾向が前立腺癌に比して強く見られ、野菜等淡泊食事を前立腺癌では多く取る傾向が見られた。アルコール、タバコ、甘党等については、両者間に差異を認めずまたコーヒー、ココア等でも取り上げる程の傾向を示さなかった。次ぎに職種については地域差が相当あり、高田 (1965) 等によると前立腺肥大症は無職に 1 番多く見られ次いで職種不明のもの、農業、事務員、商業、教員その他となっており、三浦 (1956) によれば無職、商業、農業、会社員、労務者職工、公務自由業の順であり報告者により異なる。著者が調べた処前立腺肥大症、前立腺癌、対照老人の 3 者ともに農業が 1 番多く次いで無職、商業、公務自由業、会社事務員、工員労務者、漁業の順であった。職業別では前立腺肥大症、前立腺癌、対照老人の間に特に傾向は認められなかった。

V 結 語

前立腺腫瘍患者の体質について検索し、次ぎ

のような結果が見られた。

1) 頭髮については前立腺肥大症でやや額髪の薄い傾向が見られた。

2) 鬚髯については前立腺肥大症で薄いものが多く、前立腺癌では濃いものが比較的多く見られた。

3) 胸部硬毛は前立腺肥大症で無いものがほとんどであり、前立腺癌では有するものが30%に認められた。

4) 陰毛は前立腺肥大症で水平型 I, II 型, 矢状型 I が半数以上に認め、前立腺癌では矢状型 II および尖圭型が60%以上に見られた。

5) 下肢硬毛は前立腺癌が対照老人や前立腺肥大症に比較して密度の高いものが多い傾向を示した。

6) 白髪の状態については前立腺肥大症、前立腺癌および対照老人ではほとんど差異を認めなかった。

7) 性交回数については前立腺肥大症の方が前立腺癌に比較してやや回数が多い傾向を見た。

8) 前立腺肥大症では各年代を通して肉等濃厚食事の傾向が強く、前立腺癌では野菜等淡泊食事を好む傾向を認めた。

9) 職種については前立腺肥大症、前立腺癌および対照老人の間に特別に差異は認められなかった。

なお、この論文の要旨は第17回日本体質学会総会において発表した。

終るにあたり、加藤篤二教授の御校閲および御指導を深謝いたします。

文 献

- 1) Mercier, E. H. : Biochem. et biophys. acta., **3** : 161, 1949.
- 2) Blatt, P. : Zschr. Urol., **20** : 275, 1926.
- 3) Moskowitz, L. : Arch. Path. Anat., **295** : 211, 1935.

- 4) Draper, G. : Human Constitution, Saunders Co., Philadelphia and London, 1924.
- 5) Herr K. Hutter : Zbl. Chir., **39** : 2465, 1929.
- 6) 鳥居：日本皮膚科全書，金原出版，東京 I 1, 246, 1929.
- 7) 森：解剖学雑誌，**8** : 354, 1935.
- 8) 山崎：顔の人類学，天佑書房，東京，1943.
- 9) 高槻：解剖学会誌，**11**, 383, 513, 1938.
- 10) 久保：朝鮮医学会誌，**16** : 137, 1916.
- 11) 久保：朝鮮医学会誌，**18** : 41, 1917.
- 12) Pernkopf, E. u. Patzelt, V. : Arzt-Ziellers Hant- u. Geschts-Krh.
- 13) Patzelt, V. : Z. Mikw-avat. Forsch., **5** : 371, 1926.
- 14) 三木：東京医学会誌，**48** : 1467, 1484, 1934.
- 15) 谷口：Folia anat. Jap., B, **63** : 477, 577, 1935.
- 16) Dupertuis, C. W., Atkinson, W. B. u. Elftman : Human Biol., **17** : 137, 1945.
- 17) Danforth, C. H. : Nat. Hist., **26**: 15, 1926.
- 18) Danforth, C. H. : Arch. Dermat. u. Syph., **11** : 494, 637, 804, 1927.
- 19) Kinsey, A. C. : Sexual behavior in the human male, Saunders Co. Philadelphia and London, 1953.
- 20) Finkle, A. L., Moyers, T. G. and Jobenkin, M. I. : J. A. M. A., **170** : 1391, 1959.
- 21) Newmann, G., Nichols, C. R. and Durham, A. E : J. A. M. A., **173** : 33, 1960.
- 22) 入沢：臨床皮泌，**19** : 1017, 1957.
- 23) Dickinson, R. L. : Human sex anatomy, 1933.
- 24) Dickinson, R. L. : 人体性解剖学図譜，河出書房，東京，1957.
- 25) 新村：日赤医学，**11** : 54, 1956.
- 26) 中村：日泌尿会誌，**52** : 172, 1961.
- 27) 高田：泌尿紀要，**11** : 381, 1965.
- 28) 三浦：広島医学，**9** : 165, 1956.

(1967年3月22日受付)